

【市議会最前線】若い世代の意見を市政に反映＝市内高校で意見交換会・網走市（北海道）26/08/10 08:00 Nf001

北海道網走市議会では、若い世代の政治への関心を高め、その意見を市政に反映させるため、市内の二つの高校で定期的に「意見交換会」を開いています。この取り組みは、18歳からの選挙権導入に伴う主権者教育の推進を目的としています。

意見交換会では、議員と生徒が少人数のグループに分かれ、テーマを決めず、学生生活での悩み事から網走市のまちづくりまで幅広く議論を行います。

例えば、議員からの「投票率を上げるためには？」という問いかけに対し、生徒から、「オンライン投票（ネット投票）の実現」や「コンビニ・商業施設への投票所の設置」「投票者へのスタンプラリーや特産品・特典の付与」「SNSや動画を活用した公約発信」など、若者ならではの柔軟かつ具体的なアイデアが数多く出されます。



市議会が市内の高校で定期開催している意見交換会の様子

議員の側は、「バスや列車通学の運行時間帯の見直しや本数の増便」「検定料や部活動の遠征に係る市の助成制度の創設」など、高校生が直面するさまざまな課題や提案の相談を受けながら、若者の視点で市政を見直す機会になっています。

一昨年には、地域と協働して課題学習に取り組む高校において、高校生たちが空洞化の著しい中心市街地へのフリースペース設置に関する意見をまとめ、議会への請願を提出しました。この請願は全会一致で採択となり、市長へ送付され、その結果、市街地活性化の関連予算の確保に至りました。

こうしたことも、意見交換会をきっかけに、高校生が議会や市政を身近に捉えられるようになった成果と受け止めております。

これからも、議会と高校生との意見交換会は、地域の課題を身近な視点で考えることができる格好の機会になるものと期待をしています。

意見交換会に参加した高校生からは、「自分の意見を直接議員に伝えることができ、有意義だった」「積極的に政治に参加したいと思えるようになった」「一緒に網走を良いまちにしたい」といった前向きな感想が多数寄せられています。デジタルネイティブ世代からの提言は、市議会にとっても従来の選挙のあり方や、若い世代との対話の方法を見直す貴重な気づきとなっています。



高校生と市議との意見交換。若い世代の視点で市政を見直す機会になる

今後も、当市議会では、高校生が主権者としての意識を育むとともに、地方議会が若者の生の声に耳を傾ける「開かれた議会」を体現するため、高校はもとより市内の小中学校等でも積極的に意見交換会、模擬議会などを開催していきたいと考えています。（了）